

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170201028
法人名	社会福祉法人こうほうえん
事業所名	グループホームよねはら
訪問調査日	平成 20年 9月 3日
評価確定日	平成 20年 9月 17日
評価機関名	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3170201028
法人名	社会福祉法人こうほうえん
事業所名	グループホームよねはら
所在地	鳥取県米子市米原 8-69 (電話) 0859-33-1337

評価機関名	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9 市ヶ谷MSビル4F		
訪問調査日	平成20年9月3日	評価確定日	9月17日

【情報提供票より】(20年 8月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 19日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤	8, 非常勤 0人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	3 階建ての 2 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円
敷金	有(円) 【無】		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 【無】	有りの場合償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1, 100円	

(4) 利用者の概要(8月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	九里クリニック・中村医院・小川歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1ユニットのグループホームの特徴として、職員のまとまりと相互協力の良さが利用者サービスに反映されて、利用者のねぎらいのの聲が得られている。利用者・家族と管理者・職員で作上げた「家庭的なホーム」になっているといえる。一方、職員からは、可能な限り、利用者の外出に努力しているが、個別の希望に即座に添えない悩みも出されている。併設のデイサービスの支援も受けているが小規模事業所の悩みであろう。地域との連携も、次第に進みつつあるが、今後のボランティアの受け入れや世代間交流などの推進に期待するものである。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「入り口の段差を無くす。居室・廊下の手すりの設置」の課題に対して玄関の段差については改善がなされた。手すりについては未着手である。「地域に対する積極的なアプローチ」については、施設便りを自治会の33班に送付したり、公民館の催しの参加したり、中学生の職場体験実習を受け入れたり、近隣との交流なども進みつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価を行い、チームとして4回の検討会を持って、まとめを行った。日常のケアや活動の振り返りが進められ、改善点などが、気づきとなって自己目標などに落とし込まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会長・民生委員・地域包括支援センター・利用者家族・利用者が参加し2~3ヶ月に1回開催している。地域関連機関の紹介・公民館行事・人権擁護についての説明・ホームの利用者の状況などが議題となっている。地域との協働について、事業所3階の活用のアドバイスも出されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご意見箱はエレベータ前に設置してあるが、あまり活用は無い。日々の家族の来訪時に、要望や苦情を聞き取るようにしている。また、毎月、担当職員の利用者の近況おしらせ文書・預り金出納帳写し・広報誌やよねはら便りなどを郵送している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や公民館などの行事や清掃に参加している。事業所とデイサービスが協同で開催する夕涼み会は玄関前駐車場でおこなわれたが、近隣の参加が多数あった。出し物も多く好評であった。また、天候の良いときには、施設前が通学路であるので小学生の登下校の見守り隊として職員とともに利用者も見守っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念・方針・2008年スローガンなどがホールや食堂に掲示されている。当グループホームの独自の理念は職員の話し合いで作成され示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人内のグループホームの介護10原則も示し、職員の業務の取り組みに反映するようにしている。月の職員ミーティングで部門目標のチェックとともに理念の振り返りを行うこともある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の「よねはら祭り」などのイベントへの参加、自治会の清掃活動への参加も行っている。併設のデイサービスとの共同の広報誌は自治会の回覧板に含めて伝達されている。公民館のサークル活動にも参加している。また、ホーム前で行なう夕涼み会には近隣の高校からボランティアも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、日常のケアや活動の振り返りも行った。話し合いは4回にわたり、今後の課題についてもまとめられた。	○	この過程において明確になった具体的な改善項目を、個人の目標に落とし込む工夫を期待したい。利用者の意向を組み込み、満足度を高めることに繋がるものである。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議において、検討されたテーマは職員に伝えて、情報共有している。3階のスペースの活用については、検討するとともに、広報手段も考慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員との相談や連携が、随時取られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月担当職員が利用者の近況をお便りに書き、預り金出納帳の写しや広報誌などとともに家族に報告している。又、家族の訪問時には、状況を説明している。利用者の健康に変化が見られた時は、電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベータ前に苦情受付箱が設置されている。また苦情相談窓口が掲示されている。広報誌にも「何でも相談下さい」の紹介もなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年、職員の異動・退職も無く、無事に過ごしている。新旧職員の異動があったときは、職員全員のチームとしての対応で配慮していくとともに、利用者の方の反応で解決となることもあろう。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は計画通り行われ、職員が参加している。法人外の研修への参加は、研修内容の報告がなされている。今年度特別に、外国からの介護福祉士候補の受け入れ準備研修も行われた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループホームの管理者の委員会が行われ、情報交換が行われている。定期的な勉強会や交換実習なども行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者と家族が、当ホームに訪問し、他の利用者の状況やホームの雰囲気などを見聞きしている。1階のデイサービスを利用していた人が入居することもあり、その場合は、デイのスタッフが頻繁に話しに来て、早く馴染むようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が「利用者は、人生の大先輩である」という考えを共有しており、季節の行事や郷土料理の調理法などを学んでいる。又、悩んでいる職員の状況を見て、利用者が慰めたり、激励の言葉をかけることも多いという。福祉のあるべき姿が実現されているといえよう。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、利用者の会話や表情、仕草などから、意向を汲み取っている。また、家族の面会も比較的多くあるため、その機会に、意向を聞くなどしている。把握した意向は、連絡ノートに記録し職員が共有するが、本人が言った言葉をそのままの表現で記録するなど、日常関わっている職員が把握しやすいように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成時には、本人の意向を確認するとともに、家族の思いも必ず聞き、日常的に関わっている職員からの意見を加え作成している。家族は、聞き取る以外に、介護計画書原案に直接意向を書き加えることもある。介護計画書は、家族に説明を行ったうえで署名捺印をもらうとともに、職員全員にも共有していることも確認できた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングでケアの遂行状況を確認し、定期的には6ヶ月に1回、必要があればそのつど介護計画の見直しを行っている。アセスメントやモニタリングの記録もきちんと記入されている。変化があったことについては赤字で記入しわかるようにしている。そして、変更のあった新たな介護計画書については、介護計画書沿ったケアの実践の記録もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制やショートステイの体制を整えており、柔軟にサービスが提供できる状況にある。また、3階には、多目的に利用できるスペースがあり、今後は、生き生きサロンなどで地域の方に利用することや地域とグループホームが交流することに活用するなど具体的な活用方法を検討しており、一層の多機能性の拡大が期待される。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望した入居前からの医療機関を受診できるように支援している。通院は、基本的には家族がに依頼しているが、意向により職員が行う。また、希望があれば、新たな医療機関や往診可能な医療機関を紹介し、連携するなどの支援もしている。利用者ごとの医療機関は、一覧表に職員が共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の看取りを含めたマニュアルを作成してある。重度化しそうな場合には、医療の専門家と連携を取りながら、早い段階から家族の意向や対応方針を、話し合う取り組みをしている。今年、実際に、看取りを希望した方への対応事例があり、家族とよく話し合いながら、看取りのケア計画を作成し看取りケアをした記録がみられた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを大切に声かけや対応をしている。職員同士が、日常的に尊重した声かけや対応について、具体的な事柄をとおして話し合いをしている。個人情報保護に関する規定もあり、また、利用者の個人情報の取り扱いについての同意書もある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日課はなく、一人ひとりのペースを尊重した支援をしている。朝食も、朝6時30分に食べる利用者もいれば9時頃食べる方もいる。入浴スケジュールの配慮や散歩、近くの美容室へ行くなど、利用者が行ないたいことを尊重した支援を心がけ実践している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食材の買い物、調理、食事準備、後始末や食器拭きを職員と一緒にやっている。職員は、利用者のペースを尊重し、話題を提供しながら一緒に食事を楽しんでいる。その時になって、ご飯よりパンがよいという利用者に対して、違和感なく配慮した対応が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って入浴している。概ね15時頃から夕方までとなっているが、夕食後の入浴を希望する利用者1名にも対応している。入浴したくない人には、時間をおいたり、違う職員が声かけをするなど工夫をしている。入浴チェック表が作成しており、週2～3回は入浴するか、体調により清拭にすることもある。	○	浴室内に、足元が不安定な箇所やタイル張りの角張った箇所があり、身体機能の低下した利用者にとっては、危険である。安心とともに安全に入浴できることが、楽しみにつながると思われるため、浴室内環境について、検討することが望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の味見・盛りつけ・洗濯物たたみなど、日常生活の中で役割をもち、張り合いとしている。また、利用者一人ひとりについて、生け花、民謡など得意なことを把握し、関係するボランティアに来てもらうなどの取り組みも行われている。また、より各人の楽しみをみつけるため、家族に聞いたり、日常の会話の中から把握に努めるなどして日常の支援に活かす努力もみられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、みんなで散歩し自然に触れたり、地域の祭へ参加している。個別的にも、買い物、近隣の美容室、利用者の興味のある公民館活動への参加などにも支援をしている。また、ホームとして行事計画を立て、外に出たがらない人も含め、皆で外出をする取り組みもある。利用者の行きたいところへという職員の強い思いで、個別外出の今後の取り組みに期待したい。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームは2階にあり、エレベーターで自由に1階へ下りられる。玄関は、電子ロックで暗証番号により開く。家族には暗証番号は伝えてある。玄関ドアは、一旦開いてしまうと、開けっ放しの状態となる。現状では、多くの時間が、開けっ放しの状態となっている。利用者は、自由に入出入りできるが、逆に、見知らぬ人が勝手に入ることも可能な状況である。	○	身体拘束の点では、屋内・屋外へ自由に入出入りできる状況は良い。しかし、リビングと離れた所にエレベーターがあり、利用者が外に出ても、誰も気づかない危険性が伴う。外部の人が勝手に入出入りする危険性もある。安全重視は、家族の意見や運営推進会議にも取り上げられているが、「身体拘束しない」と「利用者の安全を護る」との兼ね合いを検討し、関係者が納得できる状況への取組みが求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成しており、消防署の協力で、年2回の消防避難訓練を夜間も想定して行っている。今年は、その内1回を地域の人が、見学の形で参加した。また、職員が救命講習に参加するなど、災害時や救急時の対応や意識を高める取り組みをしている。そして、地域と防災協定を話し合い、相互協力について合意を得ている。	○	二階にある1ユニットのグループホームであり、職員数に限りがあること、今後利用者の心身機能低下が進行することを考慮して、災害時や緊急時のために、より多くの救援支援を確保することが重要であると思われる。そのために、地域防災協定を結び、より安全に素早く避難するための避難経路の確保やハード面整備という必要な手立てを話し合い、取り組むことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは利用者の意向を取り入れ職員が1週間分作成し、管理栄養士のアドバイスを得て完成している。また、肉料理を魚にするなど利用者の嗜好も尊重している。食事・水分摂取量のほか排便や口腔ケアの事も記録している。状況により、かかりつけ医や訪問看護師に相談し、食事形態を変えたり、エンシュアリキッドを処方し必要量が摂取できるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二階にあることで、居室やベランダから開放感をもって周囲の景色が見渡せることができる。廊下は広く、利用者が活けた花を飾ったり、絵画を飾ったりして、心地よく過ごせるような工夫をしていた。廊下の広いスペースを利用して、複数名が座ってくつろげるように配慮したスペースも確保してあった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、なじみある生活用品、仏壇や家族の写真などが持ち込まれており、利用者がくつろげるような居室づくりが行われていた。入居前には、職員が実際に利用者の自宅へ行き、入居前の住環境を確認し、また、家族との話し合いも実施されている。利用者同士が自分の居室で交流することもあるようである。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームよねはら
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鳥取県米子市米原8-5-77
記入者名 (管理者)	小谷 知江美
記入日	平成 20 年 8 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	当ホーム独自の理念を、職員の話し合いの中でつくり掲げている。地域の方との交流を軸に楽しみのある生活を目指している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員採用時には当ホームが大切にしている入居者と向き合う時の心構えを伝え理解してもらっている。基本的介護姿勢として介護10原則を掲げ日々取り組み、月のミーティングで理念の振り返りを行っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	食堂入り口に理念を掲示している。地域のイベントへの参加、自治会の清掃活動への参加を実践している。「よねはら便り」という広報誌を年4回位作成し自治会の回覧板の中に入れて頂き地域の方にホームの実践を伝えるようにしている。推進会議の中で話し理解を深めている。	○ 1階デイサービスとの共同のよねはら便りの作成であるが、回数を増やし内容もより暮らしぶりを理解していただけるものにしていく。
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域の自治会に加入している。回覧板を回したり、頂き物をすることもあり、ちまき作りの時にはお返しをした。近所に行きつけの美容室があり散歩途中にお茶に誘ってくださり立ち寄らせていただくこともある。	○ より自治会の会合へ参加する。グループホームが2階にあるため地域の方に立ち寄っていただきやすい雰囲気作りをしていく。3階の普段使用していない空間の利用について推進会議で啓蒙していく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	事業所が開催する夕涼み会へ、近隣の高校からボランティアとして参加してもらっている。地域の方へも広報し参加していただいている。地域の公民館のサークルへ不定期ではあるが参加している。散歩時のごみ拾い、たすきをかけ小学生の下校時の見守り隊を行っている。	○ 地域の行事へ参加するだけでなく準備のボランティアを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>認知症に関する地域の相談窓口として、福米地域包括支援センターが作成したちらしに載せてもらっている。中学生の職場体験学習の受け入れを行っている。</p>	○	認知症の相談窓口としての機能を地域へよねはら便り等で広報していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>自己評価を全職員で行い、日頃のケア、活動の振り返りを行った。昨年の改善事項に対して取り組んだ成果についても話し合い、今後の課題について共有出来た。玄関のスロープ等ハード面の整備を行い防災についての地域との話し合い、備蓄品について等改善に取り組んだ。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>2ヶ月に一回の会議の中で意見を日々の支援の中で推進している。推進会議で指摘を受けた設備の改善も実施できた。</p>	○	よねはらには3階に自由空間があり、そこを地域の方へ開放し趣味の会の開催場所として提供するなど広報していく。よねはら便りに具体的な使用方法などを記載する。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>市町村の担当者と連携をとり事故報告書についてもレベルに応じて行うこととしている。</p>	○	課題解決の折に、担当の方に相談させていただいている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>理解を深めるため資料の配布をしている。入居時に必要に応じて説明を行っている。</p>	○	研修会があった時には、職員の参加を促したい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>法人主催の研修会へ参加している。</p>	○	身体だけでなく、言葉による虐待、抑制についても職員間で注意し合っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>重要事項説明書に基づき、説明を行い理解が得られたときに署名にて同意を得ている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>法人内に『ふれあいの橋の会』という第三者の会があり不定期ではあるが訪問していただいている。日常的に職員は一人ひとりの入居者の思いを察する努力をしており手を止めて話を聴くことを優先している。医療機関の往診時も利用者の思いを汲み取る機会と捉えている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> <p>毎月担当職員はお便りを書き近況を報告している。ご家族の訪問時最近のエピソード等お話している。健康状態については何か変化があった時電話にて相談している。水分量、体重の推移、食事量等具体的な数字を示し説明している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>グループホームエレベーター横にも、苦情の相談窓口が掲示してある。面会の折に、エレベーターまで見送りをすることで話す時間を作っている。</p>	○	<p>家族会は発足していないが、行事の折に職員と家族の話し合いの会をホーム側が企画し実施する。推進会議時にも検討していただく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>管理者が、ローテーションに入っているため機会は設けていないが日常的に話をすることが多い。月1回のミーティングを実施している。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>急な休みが生じた場合は1階デイサービス職員に応援を依頼することもある。急な受診等にも対応しており、超過勤務時間となった場合は時間返しをするなど調整している。</p>	○	<p>事業所内で対応出来ないときエリア内の施設へ応援を依頼する。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>異動、退職もなくなじみの関係が築けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修への参加は計画的に行っている。(認知症ケア研修、看取りケア研修など)。法人外の研修は掲示し参加を促している。</p>	<p>○</p> <p>研修報告を月のミーティングで行い研修内容を共有する。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの管理者のステップアップ委員会があり情報交換を行っている。定期的に勉強会も実施している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>有給を利用して、リフレッシュ休暇をとるようにしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>月1回副理事長の訪問がある。人事考課の面接時各自の思いを把握するよう努めている。仕事の役割分担をしており職員、個々が向上心をもち責任をもって取り組んでいる。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>共に過ごす時間を多くし、話を聴く時間をつくっている。トイレのサイン等を見逃さないよう職員間での情報共有を毎日の申し送り時行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前に自宅へ面談に言った際にこれまでの苦労など聴き今後何を求めておられるか理解するように努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、他の事業所のサービス利用も検討しても良い場合橋渡しを行う。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にご家族、本人に訪問していただいている。1階デイサービスを利用していただいていた方の入居の場合、デイのスタッフが頻りに2階グループホームにきて話をしてくれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であるという考えを職員が共有しており、例えば季節の行事など利用者から教えて貰えるよう場面づくりに工夫している。(干し柿づくり、ちまきなど)		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時に日頃の様子をお話し以前の生活の中でのその人らしい生活ぶりを伺い今の生活にいかせるよう話し合う。	○	ご家族も外出時にお誘いしているが、参加が限られているためより参加していただける工夫をしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出へご家族への参加を募ったりホームの行事に家族全員に声を掛け参加を募っている。日常の写真を撮り、個々のアルバムに整理している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	息子様の月命日を覚えておられる方がおられ、一緒に墓参りに行っていた。又ご家族だけでは帰宅が困難な方は職員も付き添っている。ご家族へご利用者の思いを話し、帰宅が実現し愛犬と楽しい時間を過ごされた方もいる。愛犬のホームへの訪問もある。	○	より詳しい生活暦が、本人、ご家族より聞きだせるよう努める。お茶の時間を有効に使い一緒にお茶を飲みながらより長く話を聴く。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性、日常のトラブルについて職員は情報交換している。趣味活動、トランプなどゲームを通して交流の場を設ける。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、移られた先へ会いに行っている。ご家族が遊びに来られたこともある。ご家族の今後への不安についても話を聴くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け把握に努めている。身体状況に心配がある場合ご家族と必要であれば主治医、訪問看護の看護師にも参加してもらいカンファレンスの場を設けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身から、家族、知人から訪問時に少しずつ聞き取り把握に努めている。居室内になじみのものを置くなど暮らしやすい環境作りに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者 一人ひとりの生活リズムを理解し起床の時間、食事の量、好き嫌いなど本人の思い希望に添うよう努めている。個人記録に、具体的な言葉を記録したり、暮らしぶりが分かるような記録となるよう努めている。水分量などのチェック表を確認し把握に努めている。勤務に入る前に記録を読み状況把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間の情報交換、ご本人、家族からの思いや意見を聞きその人らしい暮らしが継続できるような介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングにより遂行状況、効果を評価し見直し時期の検討を行っている。変わったことがあれば都度ご家族に連絡し意向を確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録以外に、食事、水分量、排泄状況の記録、職員間の申し送りノートを通して情報の共有に努めている。申し送りノートには確認のサインを入れることを義務付けている。個人記録には、本人の言葉を記述するよう努め介護計画の見直し、評価に繋げている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションと契約を交わし医療連携加算の指定を受けている。	○	重度化した場合の終末期の希望を、ご家族に確認しながら看取りケアも視野に入れた支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館活動へ参加している。安来節教室を週1回ホーム内で行っている。地域の自治会と防災協定を取り交わしている。	○	地域の方へボランティアの募集を事業所だよりの中で広報していく。地域の小学生との交流の場を作っていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な方には、移動理美容車の利用をいただいている。	○	公民館である地域包括支援センター主催の健康教室等に参加する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議へ地域包括支援センターの職員の参加もあり情報交換が出来協力関係が築けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を入居後も希望されることが多く基本的には家族同行の受診となっている。不可能なときには職員が代行するようしており利用契約時に同意を得ている。状況に応じ往診可能などところへ変更の相談にも乗っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保について、排泄ケア、口腔ケアの声掛けが他の利用者、ご家族に聞こえ尊厳を損なうことになっていないか、日々の関わりのなかで職員間でいつも確認している。	○ 職員間でも声の大きさ、トーンについてお互い注意しあう。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	朝食時、パンかご飯かの選択、飲み物はコーヒー、牛乳、何がいいか。朝今日着る服の選択。等など常に意向を聞きながら生活の支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを最優先し今したいこと、例えば散歩、美容室に行く、買い物など柔軟に対応している。	○ お茶を一緒にのみながら等ゆったりした関わりの中でいま何がしたいのか思いを引き出す。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時の整容では、鏡を見ながら髪を梳く、口紅を塗るなど女性ならではの身だしなみに気をつけていただけるよう関わっている。近所に行きつけの美容室がありカット、パーマ、毛染めに行っておられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時は準備から片付けまで、一緒に行っている。食事をしながら旬の食材、料理法等の会話も楽しめるよう職員は食べる配置も考慮している。	○ 個々の希望を聞き取り個別に、外食が楽しめるよう支援する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人のおやつ、家族、知人が持ってこられた物を状況をみながら食べていただいている。	○ お預かりした物については、冷蔵庫の扉にボードを貼り賞味期限、数を記載しチェックしているが今後も継続して行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツの使用で入居された方もトイレ案内がスムーズにいっようなり布のパンツになったり、パットの使用のみになっている。	○	ノムダスのチェック表を活用し尿量の把握排尿間隔の把握に努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日希望を確認し入っただけしている。足浴なども浮腫みの軽減のために実施している。	○	夕食後の入浴支援が、1名のみしか出来ていないため今後実施できるよう勤務時間の調整を行う。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、希望を考慮し休息をとって頂いている。休息をとる場所も居間のソファークッションを利用したり居室へ案内したり本人に確認しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節感を感じていただくためにも、昔取った杵柄と経験や知恵が発揮していただける、干し柿作り、ちまき作り、おせち料理、ぼた餅作りなど作る楽しみ、食べる楽しみに繋がるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望に応じた買い物の支援を行う。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間を通して、外出、外食は全員で出掛ける計画として実施しているが、日常的な個々の希望にあわせた外出をしている。	○	個々の希望を聞きだし一人ひとりの希望に添った買い物、外食、外出を実施していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思っておられる遠くの場所への外出は勤務を調整し計画を立て行っていただいている。ご家族へも本人の気持ちを伝え協力を依頼している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居間に設置している電話で、ご家族へ、知人への電話をしていただいている。時間帯、回数には配慮し声を掛けている。	○	年賀状、暑中見舞いなどの頼りを、本人から家族宛に出していただくよう支援する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の都合のいい時間帯に来ていただけるよう配慮している。利用者と一緒にお茶飲んでくつろいでいただけるよう場所の工夫等している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しては、正しく理解し拘束の事実はないが、言葉の抑制になるような、待ってください。などの声掛けはまだある。	○	言葉の抑制に対して法人の研修に参加し、職員間で意識し注意しあえる環境づくりを行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階にあるグループホームのため、1階デイサービスの不在時には防犯の面での注意が必要であり、職員が独りになる時間帯はグループホーム玄関の中の扉に施錠をしているが、日中はオープンにしている。	○	1階のフロアをデイサービスと仕切れるような設備面の改善を検討している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、利用者が見守りやすい位置にいて利用者の状況を把握している。職員間での声掛けを行いお互いの所在を明らかにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	漂白剤等の洗剤、包丁など目に触れないところへ保管したり、裁縫道具は使用時に注意をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のひやりはつとを記録に残し、職員の共有意識を図っている。今後の予防策について速やかに検討し職員間で周知している。ご家族への説明、報告は細やかに行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回エリア内で行われる救急法の勉強会に参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回利用者とともに避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	近況の報告の中で、転倒など起こりうるリスクについてもご家族に説明し理解していただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を職員は把握し共有しており、少しでも変化が見られたときには、主治医、家族へ相談し受診、往診へつなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の綴りを作成し職員が内容を把握できるようにしている。服薬介助はISOのマニュアルに基づいて行いチェック表にサインをいれている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量、運動量に配慮し自然排便が出来るよう取り組んでいる。食べ物にも配慮し、食物繊維の多い食材やヨーグルト等の乳製品を取り入れている。豆乳のフレッシュジュースもとりに入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の声掛けを行い、力に応じた声掛け介助を行っている。義歯の洗浄も個々の力に応じた介助をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をチェック表に記録し職員が情報を共有している。定期的に管理栄養士のアドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対してのISOのマニュアルがあり予防、対策に努めている。ノロウイルス対策としてペーパータオルの使用、1日1回の手摺り等の消毒を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは每晚漂白している。冷蔵庫内の掃除、食材の鮮度の確認をチェック表を用い行っている。買い物は毎日出掛けている。クーラーバックにて冷蔵、冷凍のものは持ち帰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい雰囲気作りのために、花壇をつくり、案内板も手作りのものを掲げている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を利用者に生けてもらったり、家庭的な雰囲気となるように心がけている。ベランダでプランターに四季の花を植えたり野菜づくりをしたりと配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前の空間にテーブルと椅子を置き自由にくつろいでいただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い状態になるよう家具の配置にも考慮している。家族の写真など飾りご本人が安心できるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレの掃除は臭い、汚れの状態です度々行っている。温度調整は外気温との差が5度以内となるよう居間の温室時計を確認しこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて浴室の手摺りの設置など、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの混乱の原因を環境面に焦点をあて探るなど職員間で話し合いを行っている。カレンダーの表示を大きくしたり居室が分かるような工夫をしている。朝夕の申し送り時にも情報交換し合い申し送りノートも活用している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横の花壇、ベランダの水遣りを日課としてお願いしており役割として定着してきている。日光浴しながらの談笑の場となるようベランダに椅子とテーブルを置いている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域への清掃活動等でのボランティア、小学生の帰宅の見守り隊などこちらから出掛けていく機会地域と関わる機会を増やしより馴染みの存在となるよう配慮している。近隣の散歩途中で頂も物をしたお宅に後日、ぼた餅を作った際に届けるなど細やかなお付き合いを心がけている。